



更生 刻々

法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560 (直通)

✉ 1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/
kyousei08_00101.html



第10号
令和4年1月27日発行

「犯罪白書」「再犯防止推進白書」できました！

コロナ禍における犯罪傾向と、それに相対する再犯防止施策を読む

昨年12月、令和3年版の「犯罪白書」と「再犯防止推進白書」が閣議に提出、公表されました。

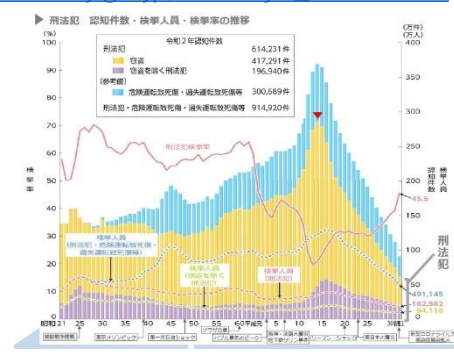
「犯罪白書」は近年の犯罪傾向を豊富なデータと共に可視化し、明らかにするもの、そして「再犯防止推進白書」は、国の最新の再犯防止の取組について、再犯防止推進計画に掲載された施策ごとに具体的に紹介するものとなっています。

今回の犯罪白書では、令和2年の犯罪統計が新たに掲載され、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、我が国の犯罪状況がどうなっているのかが明らかにされています。例えば、コロナ禍において社会不安が増大する中でも、犯罪の認知件数は減少を続け、戦後最少を記録している一方、児童虐待や大麻取締法違反など、増加している犯罪もあることなどが記載されています。

再犯防止推進白書では、2019年に閣議決定された「再犯防止推進計画加速化プラン」においても課題

として挙げられた「満期釈放者対策」について特集され、満期釈放者の現状について、刑務所への再入率や再犯期間、支援ニーズなどをデータで解説するとともに、その対策として国、そして地方公共団体等の取組を紹介しています。

データ版については、法務省ホームページにて無料でダウンロードいただけます。ご興味がおありの方は、ぜひ以下のアドレスにアクセスしてみてください！ https://www.moj.go.jp/hakusyo_index.html



地方公共団体による再犯防止関連事業 ご紹介コーナー 千葉県 社会復帰に向けた包括的支援体制の整備事業

千葉県では、2018年度から、地域再犯防止推進モデル事業を受託し、3年間にわたって、刑務所や少年院の中に入っているうちから、千葉県内に帰る人に対する社会復帰のためのコーディネート支援を中心とする事業を実施されました。

そして2021年度からは、千葉県独自の取組として、このモデル事業をもとにした「社会復帰に向けた包括的支援体制の整備」事業を実施されています。

この事業においては、モデル事業で得られた結果を検証し、国から千葉県に対する支援対象者の情報提供の方法等を整理するなどし、より円滑に対象者が社会復帰できるような体制を整えています。

これまで国の支援制度からこぼれ落ちてしまっていたような人、例えば、刑期が短くて既存の支援制度に乗らない人や、障害者手帳を有しておらず、福祉制度が利用できないような人なども、本人の支援

ニーズに応じてきめ細かい支援がなされており、「罪を犯した人を地域で受け入れる」という「言うは易く、行は難し」の理念を実現させる事業になっています。

この事業、先日策定された「千葉県再犯防止推進計画」においても詳しく紹介されています。ご興味のある方は、ぜひそちらもチェックしてみてください。



← 刑務所内の対象者に渡される支援リーフレット

千葉県中核地域生活支援センター 長生ひなた所長 渋沢 茂さん

「困っている人」を地域で受け入れていく。彼らの思いを中心に。

千葉県中核地域生活支援センターは、2004年に設置され、分野横断的に、「断らない」支援を続けてきました。

「困っている人」の話を聞き、いろんな社会資源につなげていく。まずは動いてみることで、地域の関係者とのつながりを大切にし、

出所者の支援に携わることは実際どうですか？

それを見たら、「自分のために泣いてくれる人がいるなら、死んだらいけないよな」とって気持ちになった。

そんな周りの人にいつか恩返しをしたい、と思ったのが原点ですね。今は「恩返し」なんていうのはおこがましい考えだと思っております。

高校生の時、バスケット部に所属していたんですが、引退する時期に、彼女に振られちゃったりとか色んなことが重なって、へこんでたんですね。

そんなときに、シヨウペンハウエルの『自殺について』という本を読んで。別に自分は死んでもいいんじゃないかと思って、部活の仲間たちにそれを伝えたら、みんな泣いてくれたんですね。

福祉の仕事に就いたきっかけはありますか？

更生支援を語る



1989年から社会福祉士として、千葉県の福祉事業に携わる。2018年から千葉県の再犯防止推進モデル事業に携わり、多くの刑務所を訪問、受刑者の支援に当たっている。



にこやかにインタビューに応じる渋沢さん

彼らも「困っている人」なんです。福祉や教育が、彼らを見遇いしてきて、結果として刑務所に入ってしまった。そんな彼らの居場所を、彼らの思いを大切にしながら、地域の中で再構築していけたらいいな、と思っただけです。

彼らの支援にはなかなか終わりが見いだせないから、数としてはどんどん増えるんだけど、昔ある人に言われたんです。「友達が増えると思えば楽しいでしょ」と。素敵な考え方だと思っただけです。

迷ったときは弱い人の立場に立つこと、などを心がけています。そんな活動の中で、罪を犯した人たちの支援に携わることも少なくなかった。抵抗感はそのほどなかった。

彼らも「困っている人」なんです。福祉や教育が、彼らを見遇いしてきて、結果として刑務所に入ってしまった。そんな彼らの居場所を、彼らの思いを大切にしながら、地域の中で再構築していけたらいいな、と思っただけです。

更生小考

魂の救済

古来、魂は球形で見えざる紐がついていると考へられていた。魂はかたちが重要である。かたちは、その在り方の本質を現出すると考へられたからである。魂の古語は「玉」。最も優れた形態をとって現れ来たものが、玉であると考えられた。

「魂結びくたまむすび」は、魂がからだから浮かれ出るのを結びとどめるまじない(デジタル大辞泉)。水引、しめ縄など「結び」に関する文化が日本にはある。「結ぶ」という動詞には重要な意味が込められた。魂の紐を結び合わせることで、縁や契りという魂が宿る関係が生まれる。魂をめぐる表現は多い。魂を結び、魂を吹き込む、魂を揺さぶる…。

「魂が震える」と表現される事件もある。矯正行政に転機を呼んだ事件に安城事件があり、下関駅放火事件があった。安城事件は更生保護法につながり、地域生活定着支援センター設置の契機の一つともなったのが下関駅放火事件である。

下関駅放火事件のFさんは平成17年12月30日に刑務所を出た。お金がなくなり翌年1月3日あたりから野宿したり、病院で保護されたり、福祉施設で保護されたり。すぐ放火に走ったわけではなく、刑務所に戻るため2回万引きした。警察署に行って「捕まえてもらえませんか」と頼み込んだが、逮捕されなかった。生活保護を受けようとしたが、住所がないということで受けられず。福祉機関で、下関駅までの190円の乗車保護を受けて下関駅に着いた。「腹が減って寒くて刑務所に戻りたい」と1月7日未明、駅に放火したのだった。

高齢で累犯者で知的にも障害があったという。福祉からも司法からも置き去りにされていた。Fさんに手を差し伸べたのは、ホームレス支援をしていた奥田知志さんである。のちに奥田さんはFさんを伴い講演している。刑務所で面会した時の話も紹介している。奥田さんは刑務所での接見で、Fさんのおなかの下に大きな火傷の痕があるのを見ている。子どものころ、草むしりの言いつけをめぐって、父親に風呂場(昔の薪の風呂)の焚口に連れていかれ、火のついた薪をお腹に押し付けられた。「それから、おやじと火を恨むようになった」という。

奥田さんは支援するときいつも聞く二つのことがある。一つは支援の最低ラインを決めるためのもの。「あなたの人生で一番つらかった日はいつですか」。

「刑務所に誰も迎えに来なかった。1回も迎えに来てくれなかった。これが一番つらかった」。

「じゃあ、今回は僕が引受人になります。必ず迎えに行きますから」という話になった。

もう一つ。これは支援の目標を決めるためとのこと。その人にとって幸せって何なのかというイメージを持つ。

「あなたにとっての一番よかった日、幸せだった日々はいつですか」。

「う〜ん」と考へてFさんはこう答えた。

「そうだなあ、一番幸せだったのは、おやじと一緒にいたあのころかなあ」。

奥田さんは驚いた。

「だって、あなたが放火してしまうようになったそんなお父さんなのに、お父さんと一緒にいた方がよかったの?」。

「やっぱり独りぼっちの方がつらい」。

これが、奥田さんの信念になった。「どうやって支援したらいいのかわかるのは、もう明確なんです。独りにさせないということなんです」。

二つの魂の対話は、導く者と導かれ歩む者を結び付けた。

裁判では、あれだけ「ずっと刑務所に帰りたい」と言っていたFさんが、「もう一度社会に戻りたい。奥田さんのところに行きたい」と最終陳述で裁判長に訴えた。

判決は懲役10年。未決勾留600日。実質8年だった。Fさんは当時76歳だから、84歳で出られる。拘留所に面会に行った奥田さんは「8年よ、8年。二度と犯罪を起こさないで社会の中で生きること。これがあなたにとって責任を取ることなんだから、生きていけないといけないよ。絶対に出てきなさいよ」と励ました。普段あまり表情を出さないFさんは、「うええん」と言って、「うわあん」と泣いたそうである。

奥田さんは振り返る。「ある意味、無垢な魂を持った人が、なぜ52年間刑務所にいなければならなかったんだろうか」。

Fさんは自分の過去をたどり直し、魂の本来のかたちを取り戻す。奥田さんの中に「父親」を見る。Fさんの魂の渴きに応えたのが、奥田さんの魂だったのだ。プラトンの産婆術に通じる。更生支援で「魂」という言葉がそう使われることはないが、原点に立ち返っての再生は魂を揺さぶるものだろう。